

本棚 ぶらり

テーマ
郷土



『47都道府県・ 和菓子／郷土菓子百科』

かめい ちほこ
亀井千歩子／著
丸善出版 2016年



今日こそ隔たりはないものの、元来、和菓子は貴重な白砂糖を使った贅沢な菓子を指し、一方で郷土菓子は身近で手に入る甘いものを使った庶民向けの菓子だった。本書は、そんな和菓子と郷土菓子を47都道府県別にまとめたものである。

郷土菓子は、地域の特産物や行事と密接に関係しており、当時の藩主の影響も伺える。例えば「川越芋」は、川越藩主・秋元但馬守の奨励で栽培の始まったものであるし、「松山タルト」は、長崎探題の職を兼務していた伊予松山藩主・松平定行が長崎から松山に持ち帰って再現したものが始まりである。このように、郷土菓子を通して、歴史を知ることができるのは面白い。思わぬ発見のある一冊だ。

『暮らしのならわし十二月』

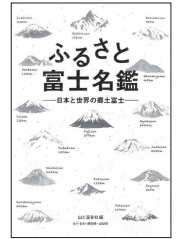
しらい あけひろ あるがかずひろ
白井明大／文 有賀一広／絵
飛鳥新社 2014年



お正月はなぜお正月というのだろうか。七五三の千歳飴、お中元やお歳暮の起源とは。「ごく当たり前に行っている行事には一つ一つに物語があり、受け継がれてきた心があります。」(本書冒頭より)新年、春、夏、秋、冬の五章からなる本書は、日本に古くから受け継がれてきた伝統文化を優しい色彩のペン彩画とわかりやすい文で語りかける。古代中国の故事に由来する風習や鎌倉・室町時代の武家が起源の行事、国内のとある地域に端を発して今も残る慣習など、なるほどそうだったのかと目から鱗の話が満載。巻末の索引を活用し、ふと気になった事柄を辞書的に引いてみたり、季節の移り変わりごとに読んでみたりと楽しみ方も豊富だ。

『ふるさと富士名鑑 日本と世界の郷土富士』

山と溪谷社／編
静岡県・山梨県／協力・監修
山と溪谷社 2014年



ふるさと富士、または郷土富士とは、「富士」と呼ばれる全国各地の山のことである。蝦夷富士ようていざん(羊蹄山)、会津富士ばんだいざん(磐梯山)など、なんとその数400座以上。本書では、そのうちの120座を紹介する。

ふるさと富士は多種多様である。円錐状の成層火山のほか、火山ではないが富士山に形が似ている山、浅間神社のある山などもある。例えば、埼玉県にある平沢富士(富士山)は、標高220mと低いものの山頂に浅間神社があり、富士講の場として信仰を集めてきた。このように、ふるさと富士は標高に捉われず、郷土のシンボルとして親しまれてきたのである。

本書には各山の色鮮やかな写真に加え、交通アクセスも掲載されており、興味をもったふるさと富士に思わず足を伸ばしてみたいくなる。

『民藝と手仕事 長く使いたい暮らしの道具と郷土 玩具61×基礎知識×楽しむ旅』

暮らしの図鑑編集部／編
翔泳社 2020年



本当にいいものを取り入れ、自分らしい暮らしを送りたい人に向けた本「暮らしの図鑑シリーズ」からの一冊。新しい生活様式でおうち時間が増えた今、身の回りのモノ・コトを見直し、心地よい暮らし、自分らしいものを選びを模索する人も多いだろう。前半は漆やガラス細工などの食器、鉄器やお櫃などの料理道具、招き猫や張り子などの郷土玩具など、テーマごとに計61種がカラー写真で紹介され、さながら日本各地を旅するような気持ちになれる。後半は民藝の基礎知識、全国の工房や民藝館の情報も掲載されている。伝統のつなぎ手たちが真心を込めて今なお紡ぎ続ける数々の民藝とともに、自分らしい暮らしとは何か、ゆっくりと考えてみたい。